

2024 年度

学校名 横浜市立 新橋小学校

対象学年 6 学年

① 学習指導案

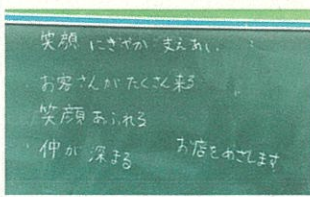
プログラム	No.8 「わたしたちのまちに言葉の贈り物」
単元名 (全52時間)	私たちのまちの担い手をふやそう
学習のねらい	連合自治会の人たちや、区役所・地域ケアプラザの人たちと関わりながら、まちの人を想い、つなぎながら地域を盛り上げようとする人たちの想いに触れ、地域の一員として、まちの課題を解決するために自分達ができることを考えたり、地域住民と関わったりしながら解決に向けた行動を行うことができる。
学習内容	1 まちを支えている人や新橋連合自治会について知ろう 2 まちを盛り上げよう ワクワクボランティア作戦開始！ 3 祭りを通して、まちを盛り上げよう 4 未来に残したいまちの良さや景観を守るために、人々の交流がもっと進むよう、まちの担い手を増やすためのリーフレットを作りまちの人に届けよう。
参考資料 準備品 実施場所等	新橋連合自治会館 新橋連合自治会各町内会 弥生台駅

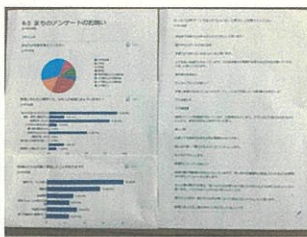
学習の流れ

時間	学習活動	教師の指導	評価
2	- まちを支えている人や、行事について考える。 - 新橋連合自治会 H さんと出会い、新橋連合自治会の概要(地域の特色、世帯数、どんな役割を担っているか)や担い手不足、祭りの規模縮小などの課題を知り、課題解決について考える。 - 区役所福祉保健課Sさん地域ケアプラザTさんから区役所や地域ケアプラザの役割と子ども向けの地域ボランティア活動について知り課題解決方法を考える - まちの担い手不足の現状を知り、自分たちがまちのためにできる活動について考える。 - 祭りに運営側として参加し、まちの人同士で関わる楽しさを伝えたり、どんなまちにしていきたいかアンケートを実施したりする。 - まちの担い手を増やすためのリーフレットを作り、地域の人たちに伝える活動を行う。	- 事前に町内行事や、関わっている人たち、中学生の先輩がボランティアとして関わっていることを意識させる。 - 夏祭りが学校から会場変更となることを提示し、課題意識を高める。 - 地域の方に地域の現状について伝えていただくよう依頼する。 - 区役所の方や、地域ケアプラザの方から、児童でもボランティアができることを提示してもらい、活動の意欲を高める。 - 安全配慮やまちをより良くする意識を持たせながら、祭りの計画をする。 - 祭りで店を出し、準備や片付けも含めて、まちの人たちと関わりながら、現状を知り魅力が伝わるようにする。 - アンケートをもとに、もっと若い住民が関わり合えるようにするにはどうすれば良いか、さらに課題意識を高めさせる。 - 読み手や、たくさんの人に読んでもらえるためには、デザインや構成、届け方をどうすれば良いか考えさせる。	- 発言 - ロイロノートでの振り返り、発言 - グループでの振り返り - ロイロノートでの振り返り、発言 - グループでの振り返り - ロイロノートでの振り返り、発言 - グループでの振り返り - 現状を伝える動画 - リーフレット - ロイロノートでの振り返り、発言

② 事業実施報告書詳細

学校名 横浜市立新橋小学校

時間数	場所	概要	活動記録(写真)	対象者の反応
10	教室	• まちを支えている人や行事について考える。 • 連合自治会Hさんとの出会い、連合自治会の概要(地域の特色、世帯数、どんな役割を担っているか)や担い手不足、祭りの規模縮小などの課題を知り、課題解決について考える。 • 区役所福祉保健課Sさん地域ケアプラザTさんから区役所や地域ケアプラザの役割と子ども向けの地域ボランティア活動について知り課題解決方法を考える • まちの担い手不足の現状を知り、自分たちがまちのためにできる活動について考える。	  	まちの環境を守るために尽力されている人たちの存在と活動内容を初めて考えることができた。 自分たちもまちのためにできることがあることを知った。 まちの環境を未来まで守るためには、自分たちが活動しなくてはいけないという意識を高めた。
12	教室	• 祭りのお手伝いとして参加するにあたり、まちの人同士で関わる楽しさを伝えるためにはどんなくじが良いか、どんなまちにしていきたいか住民の考えを知るために、どんなアンケート内容にすれば良いかなどを考える。	 	どんなまちを目指したいか、真剣に考えられた。 まちの人たちがどんな思いを持っているか知りたい気持ちが高まった。 まちの人たちがまちの良さを実感しながら楽しむためにはどのようにすれば良いか真剣に考えた。
	地域の夏祭り会場	• 地域の夏祭りに保育園のブースのお手伝いとして参加する。		まちの人たちの存在を意識しながら、小さな子どもからその保護者までが楽しめるように祭りを運営することができた。

15		• 祭りやアンケートを通して知ったことを整理し、まちの人の思いを分析する。 • 今度は祭りの運営側（独自の出店）として参加するにあたり、まちの人同士で関わる楽しさを伝えるためにはどんな店を出したら良いか、準備に何が必要かなどを考えたり、準備をしたりする。	 	まちの人たちがどんなことを望んでいるか、考えることができた。 まちの人を意識しながら、準備をする姿が見られた。 祭り当日だけでなく、まちの人たちが楽しむためには準備や片付けが必要であり、それを支えてくれている人がいることに気づいた。
		• 地域の秋祭りに6年3組の店を出して参加する。 • 祭りの中で、アンケートを通して分かったこと、自分たちの思いを動画で発表する。 • 祭りの準備や片付けにも参加する。	 	準備や片付けも、自分たちができることを行おうとする姿が見られた。 若い担い手を増やすためには、その子や保護者が楽しめるように工夫しなくてはならないことに気づいた。
15		• 若いまちの担い手を増やすためのリーフレットを作る。 • まちの環境を良くするために頑張る人たちの姿や、若いまちの担い手を増やしたいという思いを込めたリーフレットを地域の人たちに伝える活動を行う。 • 連合自治会にて、リーフレット受け渡し会を開催する。 • 地域の回覧板、駅の掲示板、保護者、地域のタウン誌、地域のケーブルテレビを通して、活動と思いを発信する。	 	まちの今の良さを未来に残したいという気持ちが高まった。 若い世代の担い手が増えるために何ができるか具体的に考えながら、デザインすることができた。 まちの人たちに伝える活動を通して、自分たちの想いが届いたことを実感することができた。 連合自治会の方々も、小学生がまちのことに真剣に向き合い、行動してくれていることにかなり感謝してくださった。

③ 実施内容について

(1) 実施にあたり工夫した点 子供達が自分たちが住むまちのことを自分ごととして捉えられるように、町内会の方や区役所、地域替えプラザの方など、さまざまな立場の方と直接話せるような機会を持った。 また、自分たちも行えるという意識を高めるために、実際に児童も参加できる区が推進している児童のボランティア活動を紹介し、その活動を行いながら祭りの活動に参加できるような形を工夫した。
(2) 実施にあたり苦労した点 祭りの参加については、暑さや川の近くということで、安全確保についてかなりの打ち合わせを行なった。また、地域の連合自治会の会議に参加させていただきながら、地域と学校の思いを合わせる点については、かなり慎重に行うこととなった。
(3) 児童の反応 まちの行事は当日楽しむだけが目的ではなく、地域住民がいざという時に助け合えるように行われているということについて気づくことができた。また、地域の担い手が高齢者中心であることの危機感や、自分たちも子どもだから任せるのではなく、自分たちにもできることがあることに気づくことができた。 児童が、まちの未来について、自分の言葉で語れるようになった。
(4) 担当教諭及び担当外教諭の変化 まちとの関わりの実際や、子供達が生き生きと活動する姿を見て、学校外の機関と関わろうとする機運が高まった。
(5) 今後の課題と取り組み [児童の思考過程と指導内容との関連付けから、留意すべき事項等] 地域の若い世代の担い手と関わる機会（例えば子育てサロンなど）と関わる機会を持ち、直接自分たちの「まちの環境をこれからも守るために、一緒に関わっていきましょう」という思いを伝える場を持てても、よかったと思う。